

初心

2018年新春号

平成30年1月発行
年2回刊
題字/福田富一 書

<発行所>

福田富一
暮しと政治研究所

〒320-0026
宇都宮市馬場通り2丁目1番12号
TEL 028 (633) 1111
http://www.tomikazu.com

「成年（平成30年）を迎えて！」

栃木県知事 福田富一

輝かしい新春をご家族お揃いで健やかに
迎えることとお慶び申し上げます。

永年にわたり格別のご厚情を賜わり改めて
御礼申し上げます。



競技団体関係者にプレゼンテーションする福田知事 (17/11/8 ブダペスト市内のコミュニティセンター)

「選ばれるとちぎ」へ

《昨年を振り返って》

那須雪崩事故の発生は、悔やんでも悔やみきれない出来事だった。改めて、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

2月には、高雄市（台湾）を訪問し、「経済分野及び教育分野における友好協力に関する覚書」を締結した。

6月には、インディアナ州（米国）の建国200周年とホルコム新知事の就任に対する祝意を伝達。9月には、ホルコム知事以下訪問団が来県し、相互に交流を深めることができた。

11月には、韓国釜山での日韓知事会議へ出席。帰国後すぐに、ハンガリーを訪問し、同国30の競技団体に対して、東京2020オリンピックに際しての栃木県でのキャンプに關しプレゼンテーションを実施（上記写真）。

陸上競技協会とは事前キャンプの覚書を締結し、他の競技団体とは個別協議を継続することになった。

4月から6月はプレDC（観光キャンペーン）を開催、期間中の観光客入込数、宿泊数ともに前年同期を上回った。

8月11日は、第2回「山の日」記念全国大会を那須町で開催した。約6万人を超える県内外の皆様の参加により、「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」という山の日の意義を確認しあった。

11月に開催した『とちぎ技能五輪・アビリンピック』では、全国から多くの選手と来場者併せて約25万人で賑わった。

《今年の話》

新春恒例の全国高等学校サッカー選手権大会で矢板中央高校が平成21年以来2度目の全国3位に輝いた。昨年の佐野日本大学高校に続き本県勢は2年連続の好成績となった。

1月15日に「いちご王国・栃木の日」を宣言した。2月14日までの1ヶ月間に、県内大型集客施設でイベントの実施や都内からの集客を図る「いちごトレイン」の運行、花と苺のフェスティバルの開催などにより、「いちご」と言

えば「栃木県」のイメージの定着を図っていく。さらに、ホテル・レストラン等での特別メニュー、スポーツ大会や、自動車販売店の試乗会での提供など、約900件の協賛事業でいちごを味わい楽しめるキャンペーンが展開される。

1月15日は「とちぎ結婚応援カード事業」も開始された。新婚夫婦及び2年以内に入籍を予定しているカップルを対象に「とちぎ結婚応援カード（愛称・とちマリ）」を交付

た。技能五輪大会では過去最多の137名の選手が参加、金賞4人を含む32人の入賞と初の団体賞「優秀技能選手団賞」を受賞。アビリンピックでは全国一の31人の選手が参加、金賞2人を含む全国最多の10人が入賞、経済波及効果は31億余円となった。

一方、昨年1月14日に開設した、とちぎ結婚支援センターは約1年が経過し、登録会員は約1800名、約300組が交際中、2組が結婚するなど着実に成果が出始めている。

3月23日から25日の3日間、2年間をかけて県内全市町を走破する、日本初の国際公認サイクルロードレース、ツール・ド・とちぎ第2回大会が開催される。新たな試みとして渡良瀬遊水池での個人タイムトライアル競技を実施するほか、一般参加のタイムトライアルレースなど、参加型イベントの充実を図った。

4月から6月はDCキャンペーンの本番を迎える。花、食、温泉、自然、歴史・文化の5つのテーマのもと、国内外のお客様に春の栃木を満喫してもらいたい。

9月には、聖火リレーのルートを選定や聖火ランナーの人選を協議する場「聖火リレー実行委員会」を設置するよう東京オリンピック組織委員会から要請があったことから、県としても具体的に取り組んでいく。

6月15日の県民の日は昭和60年に制定された。明治6年に栃木県が成立し、今年が145年の節目の年となる。6月16日（土）に、DCキャンペーンなども連携し賑やかに開催する予定である。

犬は聴覚嗅覚に優れた動物といわれている。時代の潮流を的確に捉え、「選ばれるとちぎ」の実現のため全力で取り組んで参ります。引き続きご指導を宜しくお願い申し上げます。新年の挨拶と致します。

し、協賛店舗で特典サービスが受けられる事業である。協賛店舗を募集しているが、結婚式場・宝飾店・旅行会社・住宅関連店など約150店がすでに協賛している。

「栃木創成」深化へ

ブランド力向上へ情報発信



製造業やサービス業などの23歳以下の若者が職場などで培ったものづくりの技を競う「第55回技能五輪全国大会」の開会式が11月24日、宇都宮市の県体育館で開かれた。若い世代にもものづくりへの関心を高めてもらう狙いがあり、県内開催は初めて。全国47都道府県から過去最大規模の約1337人(うち県代表137人)の選手が参加した。

大会会長の福田知事は「次代を担う青年技術者の技能向上を図る大会で、『ものづくり日本』の競争力強化につながる」と確信している」と挨拶。競技は25、26日に、宇都宮市や小山市、上三川町など県内6市町の17会場で、42職種

の競技が行われた。27日、県体育館で閉会式が行われ、各種目の成績優秀者が表彰された。県選手は金賞4人を含む過去最多の18職種32人(金賞4人、銀賞4人、銅賞7人、敢闘賞17人)が入賞。県選手団は初の「優秀技能選手団賞」に選ばれるなど、「第37回全国障害者技能競技大会(アビリンピック)」と共に好成績を収め、大盛況で幕を閉じた。

12月21日、本県選手団入賞者報告会が県公館で行われ、福田知事は一人一人に労いの言葉を掛けたうえで「技能のレベルの高さと、人材育成の取り組みの成果を全国に広くアピールできた」と挨拶した。

県によると、両大会への来場者数は約24万5000人で、県への経済波及効果は31億1100万円(推定)であった。

事前アンケートで関心の高かった「高齢者対策・医療・福祉」「安全・安心な地域社会」分野については、知事が認知症への取り組みなど現状を説明。意見交換では「ものづくり



とちぎ元気フォーラムで県政運営について説明する福田知事

このページは、下野新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、東京新聞、日本経済新聞、の記事を抜粋させていただきます。



「山の日」記念全国大会の記念式典で挨拶する福田知事

「山の日」記念全国大会

山の日の8月11日、第2回「山の日」記念全国大会の記念式典とシンポジウムが那須町文化センターで開かれた。県内外から一般参加者や来賓、関係者ら約900人が来場し、山の恩恵に感謝するとともに、豊かな自然を次世代に引き継ぐ大切さを再認識した。

式典で福田知事は「山の日記念全国大会が栃木県で開かれることは、さまざまな山を有する栃木県、山をふ

るさとと感じる多くの県民にとって大変栄誉なこと」とあいさつ。雪崩事故についても触れ、「二度とこのような事故が起きないように県を挙げて最大限取り組みことを約束する」と述べた。

近くの余笹川ふれあい公園では歓迎フェスティバルがあり、飲食ブースの他にもワークショッパや、ツリークライミング、カヌーなどの体験ブースがあり約8千人が訪れた。

福田知事らハンガリーを訪問し覚書を締結

2020年東京五輪における事前トレーニングキャンプの誘致について覚書を締結するため、福田知事や若林県議会副議長をはじめ本県関係者一行が、11月7日〜12日の日程でハンガリーを訪問した。

7日、ブダペスト市に到着した福田知事は、翌8日、同市内のハンガリーオリンピック委員会本部を表彰訪問したほか、現地の関係者に対して、栃木県の競技施設などについてのプレゼンテーションを実施。

9日には、ハンガリー陸上競技会への表敬訪問や外務貿易省での懇談などが行われた。

10日には、ブダペスト市内にあるハンガリー陸上競技会を訪れ、福田



事前キャンプの覚書に署名した、福田知事とギユライ・ミクロシユハンガリー陸上競技会会長(左)

県勢過去最多の32人入賞

技能五輪・アビリンピック

市の県体育館で開かれた。若い世代にもものづくりへの関心を高めてもらう狙いがあり、県内開催は初めて。全国47都道府県から過去最大規模の約1337人(うち県代表137人)の選手が参加した。

大会会長の福田知事は「次代を担う青年技術者の技能向上を図る大会で、『ものづくり日本』の競争力強化につながる」と確信している」と挨拶。競技は25、26日に、宇都宮市や小山市、上三川町など県内6市町の17会場で、42職種

の競技が行われた。27日、県体育館で閉会式が行われ、各種目の成績優秀者が表彰された。県選手は金賞4人を含む過去最多の18職種32人(金賞4人、銀賞4人、銅賞7人、敢闘賞17人)が入賞。県選手団は初の「優秀技能選手団賞」に選ばれるなど、「第37回全国障害者技能競技大会(アビリンピック)」と共に好成績を収め、大盛況で幕を閉じた。

12月21日、本県選手団入賞者報告会が県公館で行われ、福田知事は一人一人に労いの言葉を掛けたうえで「技能のレベルの高さと、人材育成の取り組みの成果を全国に広くアピールできた」と挨拶した。

県によると、両大会への来場者数は約24万5000人で、県への経済波及効果は31億1100万円(推定)であった。

事前アンケートで関心の高かった「高齢者対策・医療・福祉」「安全・安心な地域社会」分野については、知事が認知症への取り組みなど現状を説明。意見交換では「ものづくり

とちぎ創生アイデア会議(鹿沼 日光 塩谷地区) 知事と語ろう!とちぎ元気フォーラム 鹿沼

《とちぎ創生アイデア会議》 地方創生に向け地域で活躍する人材と福田知事らが意見を交わす」と、とちぎ創生アイデア会議(鹿沼、日光、塩谷地区)が12月2日、鹿沼市御成橋町2丁目の菊沢コミュニティセンターで開かれ、鹿沼、日光、矢板、さくら、塩谷、高根沢の6市町から7人が参加。観光、農林業などについて福田知事と話し合った。

《とちぎ元気フォーラム in 鹿沼》 福田知事が市町に向向いて県民と対話する「知事と語ろう!とちぎ元気フォーラム in 鹿沼」が12月2日、午後から同所で約1200人の市民が参加して開かれた。

事前アンケートで関心の高かった「高齢者対策・医療・福祉」「安全・安心な地域社会」分野については、知事が認知症への取り組みなど現状を説明。意見交換では「ものづくり

とちぎ元気フォーラムで県政運営について説明する福田知事

復興支援、防災に総力

全国知事会議

7月27日、28日の両日、岩手県盛岡市で全国知事会議を開催。東日本大震災後、被災地で開催するのは初



全国知事会社会保障常任委員長として経過を報告する福田知事

めで、復興支援の継続、防災対策に国と地方が総力で取り組むとした「岩手宣言」を採択。福田知事は「一定規模の自然災害や事故の経験を生かすため、知事会として情報共有の仕組みをつくるべき」と発言。

災害対策で協力推進

日韓知事会議

日韓両国の知事らが自治体間の交流や施策を話し合う第6回日韓知事会議が11月3日、韓国南部・釜山で開かれた。災害や地域経済活性化への対策について意見交換し、引き続き協力を進めていくことで合意した。会議では防災対策を巡り、福田知事が2015年9月の関東・東北豪雨での県の対応を説明した。



日韓知事会議で関東東北豪雨での県の対応を説明する福田知事

副会長に福田知事選任

政府主催全国知事会議

政府主催全国知事会議が11月24日、首相官邸で開かれ、東京一極集中是正に向けた地方創生施策の推進を要請。一方、同日、役員を一部改選し、福田知事が副会長に選任された。



9月9日、米インディアナ州ホルコム知事(右)とバスケットボールを通じて交流を深める福田知事(於：宇都宮北高体育館)

東奔西走の日々

- ◇7月13日 都内で「とちぎ企業立地・魅力発信セミナー」/立地環境や企業への優遇制度、栃木の魅力を紹介。
- ◇7月14日 都内で全国知事会社会保障常任委員会/委員長として新施策対応など政府に要望へ。
- ◇8月8日 内閣府の茂木敏充人づくり革命担当相他を訪問/全国知事会社会保障常任委員長として福祉人材確保の協力を要請。
- ◇8月27日 大田原で県総合防災訓練/「災害に強い栃木へ県民一丸で取り組む」
- ◇8月28日 益子町で芳賀地区ブロック別市町村長会議/廃校跡地活用など要望。
- ◇9月6日 宇都宮青葉学園訪問/食育現状理解へ実習視察「誇りを持ち技術学んで社会に貢献して」と激励。
- ◇9月6日 芳賀町工業団地連絡協議会と意見交換/LRT事業で周辺道路整備について「前倒しで整備する」
- ◇9月9日 米インディアナ州ホルコム知事一行来県/宇都宮で歓迎レセプション「大学、経済の交流促進へ」
- ◇9月30日 とちぎ元気フォーラムin塩谷/指定廃棄物問題で意見交換。
- ◇10月16日 大阪市で「とちぎ企業立地・魅力発信セミナーin大阪」/栃木県の立地環境の良さをアピール。
- ◇10月21日 とちぎ元気フォーラムin壬生/県内83%の自主防災組織率を「100%目指して頑張る」と知事。
- ◇11月14日 都内で「2018年産いちご王国とちぎ流通懇談会」/知事から1カ月間、県内外でプロモーションを展開する」とアピール。
- ◇11月18日 とちぎ元気フォーラムin野木/高齢者対策など意見交換。
- ◇12月7日 自民党本部で本県物産展/「実際に味わってもらい、栃木に足を運んでもらいたい」とあいさつ。
- ◇12月11日 安心して年末年始を過ごせるように宇都宮で防犯パトロール。

宇賀耶選手・高藤選手・榎崎選手に

県スポーツ功労賞



県スポーツ功労賞を受賞した宇賀耶選手(左)と福田知事



福田知事から県スポーツ功労賞を贈られる高藤選手(左)



県スポーツ功労賞を受賞した榎崎選手(左)と福田知事

22年国体栃木県内定、東京で内定式

日本体育協会は7月18日、東京都内のホテルで理事会を開き、2022年の第77回国民体育大会の開催地として本県を内定した。

伊藤雅俊会長から開催内定書を受けた福田知事(下記写真)は「2020年の東京五輪の2年後に開催される大会となり、栃木の魅力と実力を国内外に発信する絶好の機会になる」、「オリンピックがもたらす効果や成果をレガシーとして受け継ぎながら、総力を挙げて成功を目指す」と挨拶した。



8月18日、7月にトルコで開催された聴覚障害者の国際総合スポーツ大会「デフリンピック」のバレーボール女子で金メダルを獲得した栃木市出身の宇賀耶早紀選手(26)に県スポーツ功労賞が贈られた。福田知事から「金メダルおめでとう」と祝福されると「最後まで諦めずに粘り強いプレーができた」と手話で語った。10月2日、柔道の世界選手権ベスト大会の男子60kg級で優勝した下野市出身の高藤直寿選手(24)に県スポーツ功労賞が贈られた。「まだ成し遂げていない五輪の優勝は特別だと思う」と話す高藤選手に福田知事は「東京五輪は栃木の応援団が駆けつけるだろう」と激励した。12月14日、スポーツクライミングのワールドカップ複合で今季総合1位に輝いた宇都宮市出身の榎崎智亜選手(21)に県スポーツ功労賞が贈られた。「苦しいシーズン前半を何とか耐えきれ、精神的にも成長することができた」と今季を振り返った。

杉山美紗子さんを迎えて 文化講演会

9月12日、宇都宮グランドホテルで、元プロテニスプレイヤーの杉山愛さんのお母様【杉山美紗子さん】(下写真)を講師にお迎えし、「人の可能性を伸ばす10の黄金法則」世界に通用する人材はこうして育てる」と題して講演して頂いた。

娘の愛さんを始め、錦織圭選手や穂積絵莉選手などのコーチとして長年指導に当たってきた杉山さん。トップアスリートのコーチングという経験を通じて得られた、「互いに「尊重し合う」ことの大切さ

を知る』『目標を持って「続ける」ことの大切さを知る』『すぐに答えが出ないものを「待つ」ことと、「学び続ける」ことの大切さを知る』など【10の黄金法則】。



その人が人生の中で質の高い生活を送るためには、ライフスキルを磨き、自分が輝けるフィールドを見つけていくことが大切である、など大変貴重なお話を下さり、会場の皆様も熱心に聞き入っていました。

知事と語る会

11月20日、宇都宮グランドホテルで2年ぶりに『知事と語る会』を開催した(下写真)。最初に知事から、2月に台湾・高雄市、6月は米国・インディアナ州、11月は韓国・釜山を訪問して友好交流し、11月はハンガリーも訪問して事前キャンペーンの覚書を締結したこと、『とちぎ技能五輪』



で好成績を収めたことなど、直近1年間の県政が報告され、今年はいよいよDCキャンペーンを迎えることなど、県政への取り組みが話された。その後質疑応答で、職員とうまくやる秘訣を聞かれ「職員に自分の考えを伝え、一緒にやっていくことが大切」と答えた。

もちつき大会

最高の人出となった

12月3日(日)、第35回『もちつき大会』が今宮公園で開催された。好天のもと、開始時間30分前には長蛇の列ができたため、急遽時間を繰り上げて10時半にスタート。

つきたての餅、けんちん汁、しぼりたて牛乳、綿あめの他、おからドーナツやコロケ、特製の釜で焼かれた焼き芋、ポップコーンも振る舞われたが、用意した材料は終了時刻を待たずに次々と品切れとなり、35回の節目の大会は大盛況の内に終わることができた。今日まで温かく支えてくださった多くの皆様に、心より感謝申し上げます。

35年間ご協力ありがとうございます



けんちん汁担当の皆さん



父・佐市ともちをつく福田知事(左)



綿あめと洗い場担当の皆さん



受付と牛乳担当の皆さん



駐車場担当の皆さん



搗きあがった餅にあんこやきな粉をまぶす皆さん



蒸かし担当の皆さん

『福田家の茶の間』

新春のお慶びを申し上げます。昨年は、夫だけでなく、二男陽の結婚式など、大変お世話になりました。



今年も元旦も夫と共に皇居正殿松の間での「新年祝賀の儀」に参列した。19年には今上天皇が退位され、元号が変わるといふこともあり、今年も特に感慨深いものがあった。

我が家にはもう1人(?)癒しがある。黒パグ(犬)の【もも】である。生後3か月で我が家にきたが、4月には11歳(人間の60歳)になる。顔やお腹には白いものが目立ち、耳も遠くなり、階段も上らなくなりましたが、夫と私にとっては大切な家族の1人、癒しの存在である。そんな【もも】が孫にどんな反応をするか心配していたが、雰囲気分かるのだろう。杞憂に終わった。

ところで、昨年8月には陽に長男が誕生した。私達にとっては待望の初孫である。友人達から「孫は可愛い」とさんさん聞かされてきたが、本当に可愛い。生まれたては息子そっくりだったが、成長とともに両親それぞれの良い所を引き継いできている(笑)。夫は孫の顔を見て「この子は賢くなるぞ」と、じじばかぶりを発揮している。

3が日には、皇居の他に初詣(写真)や新年の挨拶回り、そして夫と私の実家へ行くのだが、今年も嫁と孫も加わり家族総出の大移動となった。行く先々で皆様に良くして頂きお世話になった。本当にありがとうございました。

編集後記

『初心』を編集するにあたりいつも感じるのだが、半年分のスクラップブックから福田知事の県政に取り組み真摯な姿を見ることが出来る。『初心』は、知事の県政への取り組みや日々の出来事などを纏めてお届け致します。どうぞ一読下さい。

◆福田富一後援会総連合会事務所
◆福田富一暮しと政治研究所
宇都宮市馬場通り2-11-12
電話 028(6333)1111
FAX 028(6333)1110